

# 研究会 開 会 挨拶

佐藤 将博

## I はじめに

時節からお忙しい折り遠路厭わず、かくも多数の方々が、私どもの企画いたしました「情報処理教育」研究会に御参加頂きましたこと大変嬉しく思う次第です。とりわけ、東京工業大学の坂元昂先生、愛知大学の坂東昌子先生をはじめ多数の方々がご講演をお引き受け下さいましたことに、心からお礼申し上げます。

また、この研究会は本学の社会情報学部からの財政的援助を受けて運営されておりますが、この事に対しても一言お礼申し上げたいと思います。

さて、私どもがこの「情報処理教育」研究会を企画するに至りましたのには、次のような理由があったかと思えます。

本学の社会情報学部は「情報学」と「社会学」の「有機的、創造的結合」を目指した学部であります。そこで、本学部の学生には「情報科学」の技術的側面である情報処理能力の習得も強く求められます。すなわち、社会情報学部の教育の成功のためには、有効な「情報処理教育」の方法を確立する事が一つの鍵であると考えられます。そこで、主として文科系大学での「情報処理教育」の経験をもちより、これを検討する機会を設けて、今後の本学部の「情報処理教育」の方法の確立にも役立てたい、と考えたわけでございます。

## II 当該テーマ（「学生に適合したアルゴリズム教育」）の選択動機

すでに「案内」でご承知のことかと存じますが、この研究会では「学生に適合したアルゴリズム教育」をテーマの中心に据えました。それは私ども世話人には「アルゴリズム教育」が「情報処理教育」の中核的位置を占めるかに思えたからであります。社会情報学部では、情報処理関連科目受講の基礎能力を養うための科目として、「ワープロ」「LOTUS1-2-3」および「BASICの基礎」を学習する「情報処理」という科目を置いてあります。ここ2年近くこの科目の学習状況を見ておきますと、「ワープロ」「LOTUS1-2-3」は全学生が殆ど問題なく消化しますが、「BASIC」ではかなりの学生が学習に困難を感じているように思われます。

私どもは、本学のプログラム教育の長い経験に照らしてみても、この現象は学生がプログラム作成に特有な論理的思考に馴染めないところから来ているのではないかと推測しました。そこで、プログラム作成の際の論理的思考の典型を「アルゴリズム」の作成過程に求め、これを効果的に習得させる方法の確立を「情報処理教育」の研究課題に設定し得るのではないかと考えたわけであります。

## III 研究会への期待

この研究会では、「学生に適合したアルゴリズム教育」を主要なテーマに掲げたわけですが、

幸いにも、皆様方の講演「テーマ」を拝見させて頂きますと、私どもの意図をくみ取って頂けたようで、大変心強く思う次第でございます。

一口にアルゴリズムと言いましても、内容には色々あるかと思ひます。例えば、問題自体の解法にもアルゴリズムが含まれますし、プログラム言語の持つ独自のアルゴリズムもあります。したがって、「アルゴリズム教育」を研究する場合、研究の素材となるアルゴリズムを具体的に明示する必要があるかもしれません。また、学生がアルゴリズムを理解している、或いは理解していないとはどのような事態、現象を指すのか、何らかの判断基準を明確にしていく必要があるようにも思われます。今回の研究会において、これらの点が積極的に解明されていく事を期待しております。

他方また、「アルゴリズム教育」の「情報処理教育」に占める位置は、私どもの期待とは違ふかもしれません。そこで、各大学での「情報処理教育の現状」の諸課題や、「情報処理システム」の特性や「大学教育改善の技法」等の観点から、この位置づけも批判的に検討される必要があるかと思われます。参加講演にはこれらの視点からの検討も期待できるものがあり、大変楽しみにしております。

「情報処理教育」を研究する「手順」にもいろいろあるかと存じますが、「アルゴリズム教育」をその研究の中心に据えるという研究のアルゴリズムがあつても良いのではないかと思ひます。

最後に、参加者の皆さんに満足頂ける研究会になりますかどうか、心もとない限りでございますが、この2日間が有意義な研究会となりますことを心から期待して、開会の挨拶とさせていただきます。